

レジオネラ症防止対策について

横浜市鶴見福祉保健センター
生活衛生課 環境衛生係

レジオネラ症とは？

レジオネラ症って どんな病気？

感染症法では四類感染症に分類されます。
発生状況を把握し、感染拡大を防ぐために、
診断した医師には届出義務があります。

主にレジオネラ属菌を含む小さな水しぶきを吸入すること（エアロゾル感染）が原因で起こる感染症

2つの病型

パンティアック熱

主な症状 発熱、寒気、筋肉痛

潜伏期間 **12時間～3日**

特 徴 一般に軽症で、
数日で治ることが多い

レジオネラ肺炎

主な症状 高熱、呼吸困難、筋肉痛、
吐き気、下痢、意識障害

潜伏期間 **2日～10日**

特 徴 急激に重症化し、
死亡することもある



重症💧

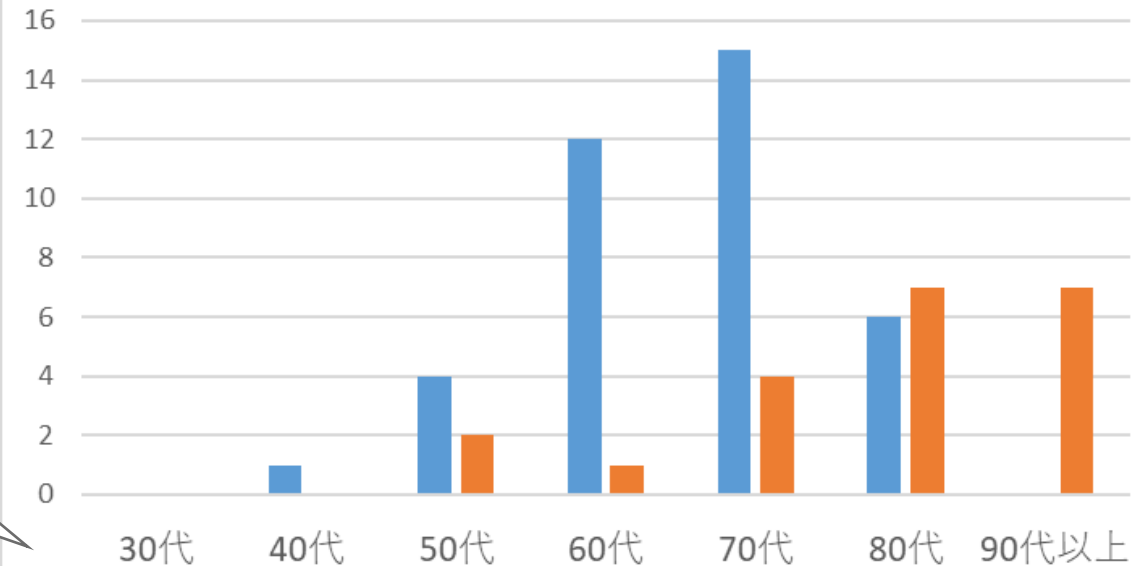
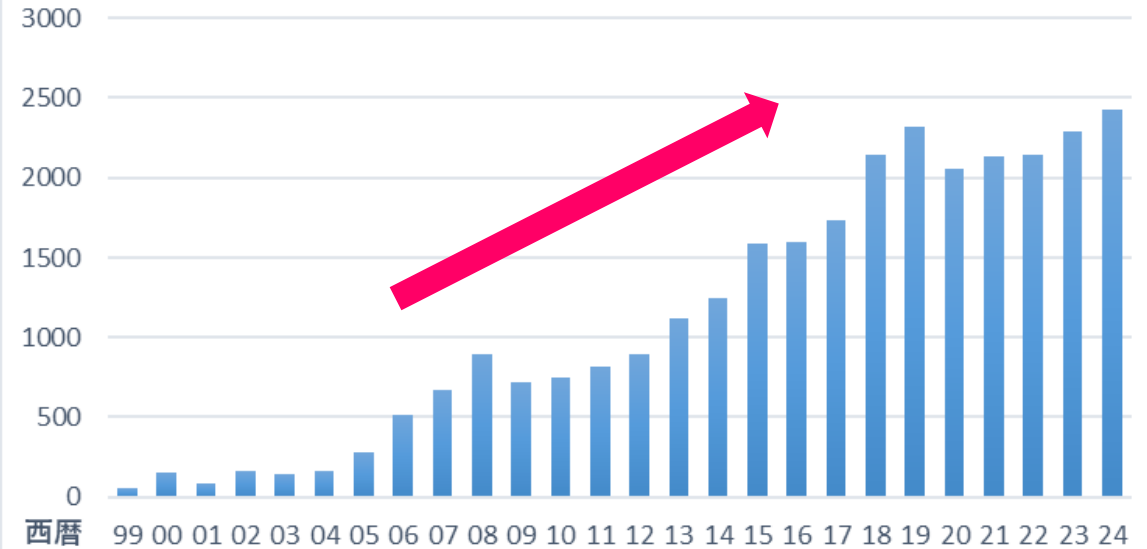
レジオネラ症発生状況



レジオネラ症患者数は全国的に増加している！

2025年 横浜市では、
59名のレジオネラ症患者が発生。
発症者には高齢男性が多い。

全国のレジオネラ症報告数



2025横浜市
レジオネラ症発生状況

■ 男 ■ 女

レジオネラ属菌の特徴

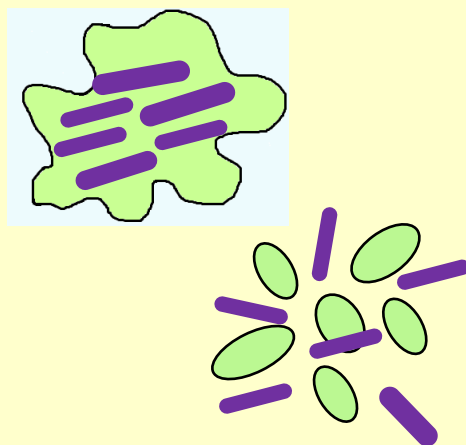
- ・ 河川や土壌など自然界のどこにでも存在している菌
- ・ 一般に20℃から50℃で繁殖し、36℃前後が最も繁殖に適している
- ・ アメーバ（原生動物）など他の生物の細胞内に寄生して大量に増殖する
- ・ 人から人への感染は起こりません

不適切な衛生管理が レジオネラ菌を増やす

清掃・消毒が不十分で、
温水の溜まっている場所があると…



生物膜（バイオフィルム）
が形成され、そこにアメー
バが発生。



アメーバ内でレジオネラ
菌が増殖、破裂したア
メーバから飛び出す。



しぶきを吸い込んで感染。

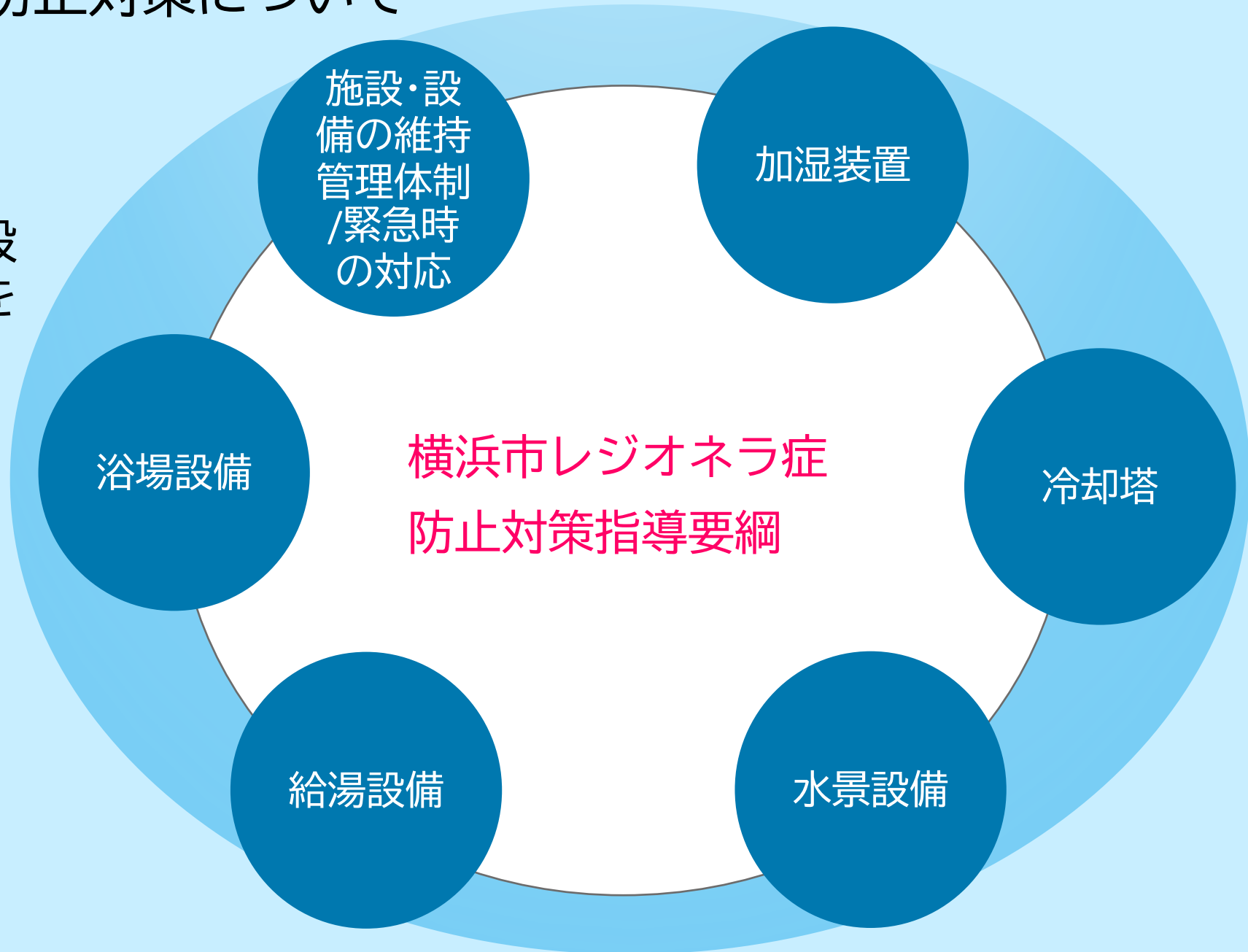
横浜市のレジオネラ症防止対策について

要綱で病院や社会福祉施設の設備に関する管理基準を示している。

横浜市ウェブページ

「施設におけるレジオネラ症防止対策」をチェック！

(要綱も掲載)

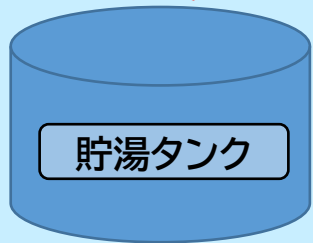


レジオネラ症発生を防止する 設備管理のポイント

1. 浴場設備～循環式浴槽～

- ・湯の温度を60度以上に保つ
- ・清掃・消毒を1年に1回以上実施

- ・毎日換水・清掃する
(ろ過器使用の場合は週1回以上)
- ・浴槽水を塩素系薬剤で消毒し
残留塩素濃度を維持する



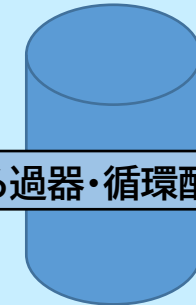
水位計配管



集毛器



ろ過器・循環配管



- ・週1回は適切な消毒方法で
生物膜を除去する

その他気泡発生装置・連通管等
湯の滞留しやすい箇所

- ・定期的な清掃

- ・毎日清掃・消毒する

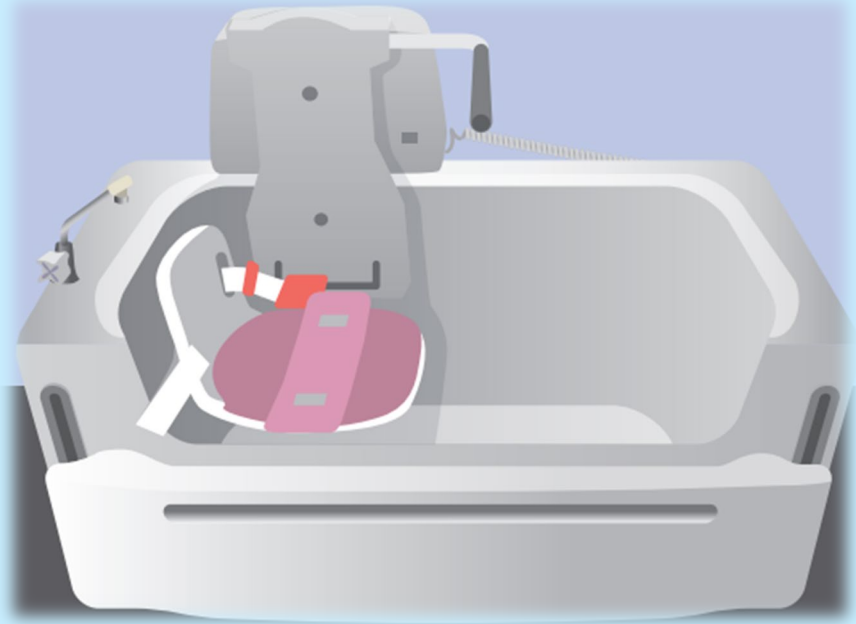
- ・週1回以上適切な方法で汚れを排出し消毒して生物膜を除去

- ・図面等で、配管の状況を正確に把握し、不要な配管を除去する

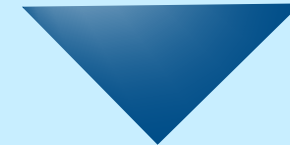
2. 浴場設備～機械浴槽～



機械浴槽は通常の浴槽とは異なる構造をしていることがある



- ・浴槽内部に凹凸がある
- ・底部の構造が複雑で水抜きが難しい
- ・気泡発生装置などの付属品の構造が複雑 等



- ・取扱説明書をよく確認して適切な管理をする
- ・定期的に水質検査を実施

3. 中央循環式給湯設備

給湯栓・シャワーヘッド

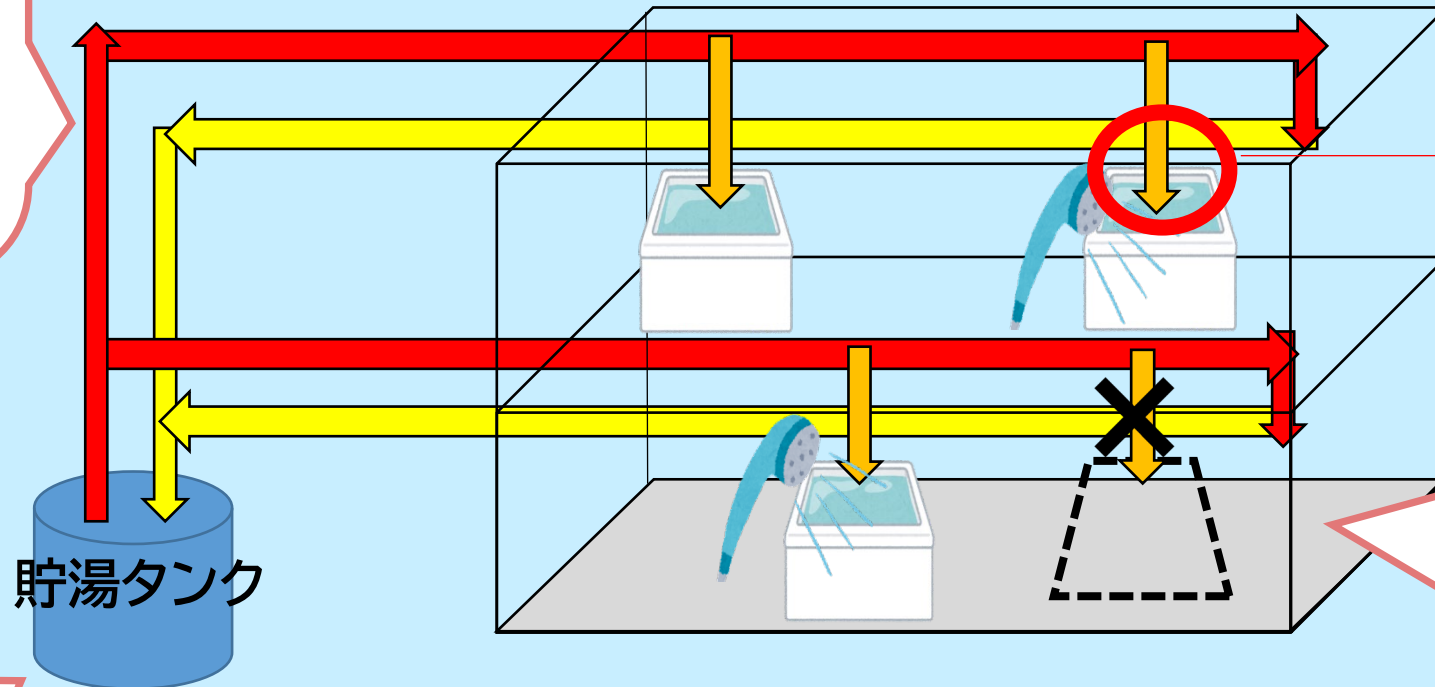
- ・週1回内部の水が置き換わるよう通水
- ・半年に1回点検
- ・年1回消毒・分解清掃
- ・給湯末端での温度を55度以上に保つ

貯湯タンク・ボイラー

- ・月1回点検
- ・年1回分解清掃
- ・貯湯槽内での温度を60度以上に保つ

中央循環式給湯とは

機械室などに加熱装置を設けて水を加熱し、給湯・返湯配管を設けて建物内の必要な場所に給湯する設備



給湯末端

- ・給水栓を撤去したまま配管が残っているところ
- ・不要な配管を分岐部から除去

設定温度が高くて、利用頻度の低いところでは
お湯が滞留して温度が低下し、レジオネラ属菌が増殖しやすい
また、配管を通じて施設全体にレジオネラ属菌が広がる恐れも

4. 水景設備

水景設備とは

- ・噴水や滝など周囲に飛沫水を飛散させる設備
- ・人が触れることを前提とする設備

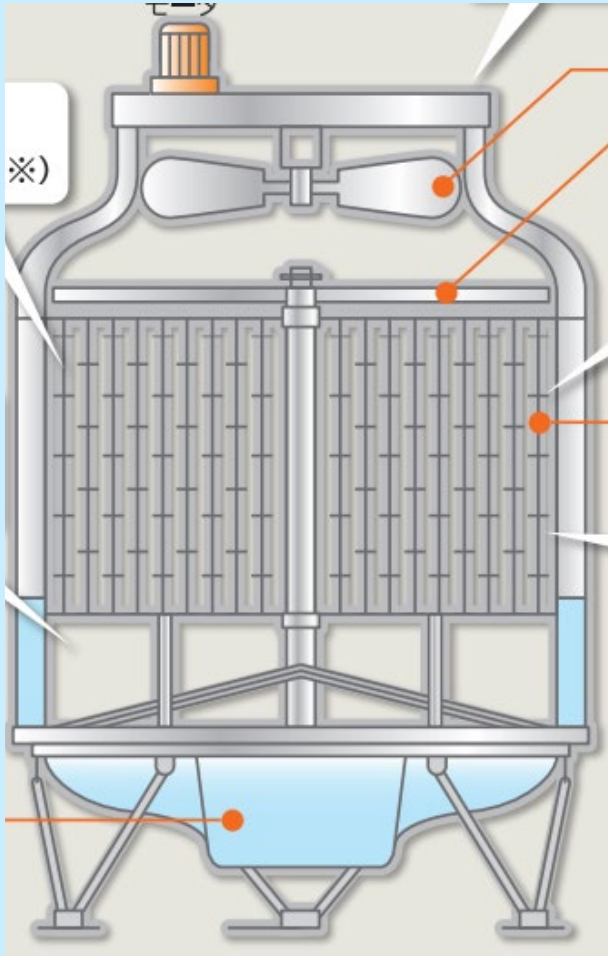


- ・1年に1回以上、定期的に水質検査を実施
- ・ろ過器、消毒装置を設けて定期的に点検・消毒を実施
- ・使用中は遊離残留塩素を0.2mg/L以上に保持する
- ・し尿を含む水を原水として使用しない

5. 冷却塔

冷却塔とは

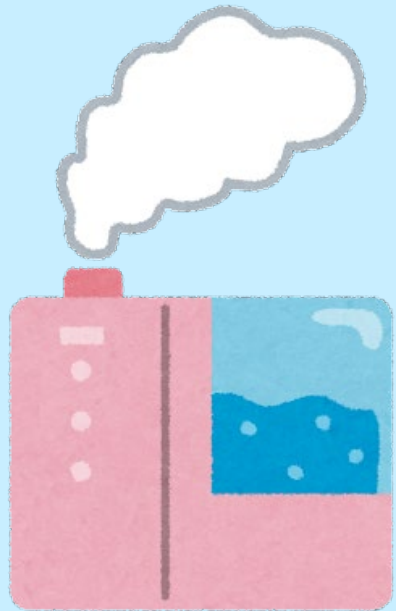
- ・冷却水と空気を触れさせて、水温を低下させる装置
- ・空調機器と組み合わせ、建物内で発生した熱を冷却する



- ・運転開始前後は適切に清掃・消毒を実施
- ・使用期間中は月1回以上の定期清掃・点検
- ・薬剤を用いた冷却水の処理
- ・年2回以上、定期的に水質検査を実施し、
管理に問題がないか確認

6. 加湿装置

ポータブル加湿器もレジオネラ症の原因になることがあるので、適切に衛生管理を実施することが必要。



- ・加湿水には水道水を用いる
- ・貯水タンクは毎日清掃し、水を入れ換える
- ・長期間使用しない時は、タンクの水を抜いて清掃し、乾燥させておく
- ・メーカーの取扱説明書に従って管理する

【一部施設】令和8年度 横浜市レジオネラ症防止対策事業の実施について

浴場設備、給湯設備、水景設備、冷却塔、加湿装置などがある施設へ
次の事項を依頼します

○「令和8年度レジオネラ症防止対策年間管理計画」と
「令和7年度管理実施報告書」の作成・提出・保管

○自主管理手引書・設備管理台帳の作成・更新

※対象設備の状況に応じて、事前調整のうえ、
立ち入り調査を実施する場合があります。

さいごに

設備の衛生管理で大切なことは、手引書を作成し、その手引書に従って管理を実施することです。

担当者が変わっても、適切な管理ができるよう、実施内容について記録を残し、振り返ることができるように保管しましょう！